

令和 8 年度
南区地域福祉アクション
プラン
地区別計画進捗確認
一覧表
【 2 0 2 1 － 2 0 2 6 】

目次

- ・新飯田地区 笑顔いっぱい「おたがい様らて」と心が通いあう新飯田 P1
- ・茨曾根地区 笑顔で支え合う 桃の花咲く 茨曾根 P2
- ・庄瀬地区 声かけ会う 話し合う 助け合う 沢山の合（愛）がある庄瀬 P3
- ・小林地区 声かけ合い心をつなぐ 小林地区 P4
- ・白井地区「やろってば！」笑顔で仲良く白井地区 P5
- ・大郷地区 なじらね〜？と声をかけあう大郷地区 P6
- ・鷺巻地区 全員集合！鷺巻地区 ～笑顔の和をひろげよう～ P7
- ・根岸地区 楽しく暮らせる住みよい根岸 P8
- ・大通地区 今つなげよう！大通に安心と思いやりのネットワークを！！ P9
- ・白根地区 広げよう地域の輪 風の舞うまち しろね P10
- ・味方地区 なじらね ばかい〜ね いきいき ふれあい ささえあい 味方地区 P11
- ・月潟地区 あいさつ 声かけ 思いやり つながりふつつ 獅子の里 P12

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引き継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
新飯田	笑顔いっぱい「おたがい さまらて」と 心が通い合う 新飯田	支え合いのしくみづくり	【課題】 ・イベント開催の募集については、より具体的な内容を伝えられるとよい。 ・年代に応じた呼びかけ方の工夫が必要である。 ・白根高校へボランティア募集を行ったが、別の行事と日程が重なってしまい、残念ながら参加できなかったと聞いた。 【次年度への引き継ぎ】 ・チラシへ具体的な内容を掲載、QRコードでの申し込みなどを行う ・ラジオ体操の参加呼びかけを引きつづき実施 ・館での地域の茶の間の開催	・昨年度に引き続き館で移動茶の間を開催する。年度内3～4回の開催を予定。周辺地域からの参加もあり、地区社協事業として不定期開催であっても定着するよう取り組んでいく。また、地区社協総会では区社協助成金の活用についても意見が出たが、今年度は地区社協の予算を活用して事業を実施する予定である。 ・「ふおうはあと」の活動では、夏季の日中の暑さを考慮し、「お寺で遊ぼう！」を午前5時30分から開催した。お寺の境内でカブトムシ採りや鐘つき、ラジオ体操を行い、その後、参加者全員で朝食を囲む内容としている。
		地域活動への住民の参加推進		・コミュニティ協議会の健康教室の一環として、ラジオ体操カードを全戸配布し、子どもたちの参加を呼びかけた。ラジオ体操は年齢や性別を問わず参加できる活動であり、大人が参加することで、子どもの見守りや世代間交流にもつながっている。 一方で、夏休み期間の短縮により実施期間が限られているため、天候不良による中止があると目標回数(7回)の達成が難しいことが課題となっている。 ・健康教室と花と緑の教室は、コミュニティ協議会の事業として実施しており、男女を問わず幅広い年代が参加しやすい内容となるよう工夫している。健康教室では、ラジオ体操に加え、ヨガ、クリスタルボール、健康体操、卓球教室など多様なプログラムを企画し、内容の充実を図っている。
		防災・減災活動への取り組み		・災害・防災に関する学びの場として、白南中学校主催の防災学習が開催された。当日は授業参観日に合わせて実施され、防災士や3地区のコミュニティ協議会役員が参加した。避難所運営ゲーム(HUG)を活用し、中学生が避難所運営を模擬体験する中で、防災士が助言を行った。 ・新飯田地区の防災訓練では、段ボールベッドの組立て、炊き出し・配給訓練、AED講習、避難所での調理実践などを実施した。消防団も参加し、200人を超える参加者が集まった。
		地域のPR		・「ふおうはあと」の活動チラシに具体的な内容とQRコードを掲載し、情報発信を強化したことで、地区外からの参加につながった。 ・中学生ボランティア募集の周知も行い、QRコードを活用し参加促進を図った。 ・中学生・高校生ボランティアの募集を進めており、マルシェやハロウィンなどの地域行事への参加を呼びかけている。また、「子ども会議」を開催し、企画段階から子どもたちが参画できるよう取り組む予定であり、看板やチラシの作成なども担ってもらうことを計画している。

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
茨曽根	笑顔で支え 合う 桃の花咲く 茨曽根	支え合いのしくみづくり	【課題】 ・グラウンドゴルフは個人主体で実施してきたが、事業拡大には自治会の協力と用具確保のための財源確保が必要。 ・自治会単位での地域交流を実施し、事業展開と意識啓発を進める必要。 ・40～70代の地域活動参加を促すため、事業目的を明確にし、生活環境に配慮した働きかけが求められる。	・野球場サブグラウンドを会場に平日の昼間に2回開催した。参加人数は維持しており、女性参加者もある。年4回ほどの開催を検討している。 ・地域の茶の間は各団体が継続して開催している。高齢化による課題もあり、若い世代の協力が必要。
		子ども達を地域で育てる取組み	・茨曽根フェスティバルは外部発信の機会となったが、地域優遇を踏まえた運営方法の検討が必要である。 ・地域の茶の間は担い手不足や世代変化を踏まえ、75歳以上も見据えた運営方法の検討も必要。	・8/22(土)に茨曽根フェスティバル開催予定。
		防災・減災の取組み	【次年度への引き継ぎ】 ・グラウンドゴルフを活用し、自治会と連携した介護・フレイル予防、交流の促進を図る。 ・地域や参加者の実情に応じた、持続可能な茶の間運営を支援する。	・高齢化が進み、日中独居の世帯も増えている。若い世代が不在にしている際の災害時の支援についても検討する必要がある。 ・子どもたちを交えての防災訓練についての検討。
		情報発信	・茨曽根フェスティバルなどを通じて、多世代交流とそれぞれの強みを活かした次世代育成を進めるとともに、小学校などと連携した官民一体の事業運営を継続する。 ・地域内の情報発信を継続し、将来を見据えた課題整理と取り組みを進める。	・地域で集まらなくても、個人で情報を入手できる時代になっている。若い人が集まって良かったと思えるような集まりについて検討が必要。

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
庄瀬	声をかけ合う話し合う 助け合う沢山の合(愛) がある庄瀬	支え合いのしくみづくり	【課題】 ・吉沢医院の閉院にともない、なじらね庄瀬では利用者の増加。協力ボランティアは増えていないので、需要と供給が合わなくなっている。 通院支援の相談が多いが、買い物支援(銀行や役所も含む)のニーズもある。利用になれてきたこともあり、家族への相談や公共交通機関の利用ができるのではないかとと思われる方からの相談もある。 予定の心配をした利用者がボランティアの自宅まで連絡してきたこともあった。 【次年度への引継ぎ】 ・公共交通機関の利用方法等を知ってもらえるような事業を検討する。 ・なじらね庄瀬の利用ルールの確認とボランティア募集の継続。 ・防災訓練では、より地域全体に広がるよう工夫する。	・デマンドバス説明会が開催され、バス停をどこに配置するか等を検討。 ・地域のイベントと紐づけ、広い世代に存在の周知や使用方法の理解、利用者の増加が求められる。 ・なじらね庄瀬のボランティア募集は継続していく。吉沢医院の閉院による影響は特に見受けられず。
		若い世代との交流推進		・よるのがっこうの運営について、多世代で関わり多方面での関わりを行っていく。 ・白南中3年生がよさこいを今まで庄瀬の祭りで踊っていたが今年は、新潟市の総踊りも参加する。
		防災・減災活動への取組み		・防災訓練について、これまで学校と地域で分かれて行っていたが、今回から地域が学校に集まり、避難訓練を実施に予定。 ・ペット防災についても検討中。 ・学校行事の減少が見受けられるため、コミ協も巻き込みながら行事を参画。
		組織強化		・学校行事の減少が見受けられる、コミ協も巻き込みながら、行事やイベントを参画していく。 ・役員だけが動くのではなく、ボランティアも自主的に行動していく。

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
小林	声かけ合い 心をつなぐ 小林地区	支え合いのしくみづくり	【課題】 ・小林お助け隊の移動支援は施設に入る方もいて減ってきた。また利用希望者の状況によっては専門職へ繋ぐ必要がある。 ・ふれあい昼食会の参加者が大幅ではないものの減ってきている印象。障がい者やその家族も固定化されてきている。認定を受けている人は増えていると思われることから、趣旨は変わらないが参加してもらえる取り組みの工夫が必要と思われる。 ・子ども食堂をと話題にも挙げたが、具体的な動きには至っていない。 【次年度への引継ぎ事項】 ・健康志向が高い為、太極拳など行政の補助金も含め回数の考慮をして実施する。 ・お助け隊の利用希望者の状況把握ができるようマニュアルに沿って活動する。 ・ふれあい昼食会の工夫が必要。参加についての声掛けや周知もしていきたい。 ・子どもを介して住民が触れ合うことは昼食会と共通するところもある。こころの安らぎととらえ広がる余地がないか考えていく。	・健康志向に対して、太極拳や3B体操を通じて幅広い年齢層に参加して貰う。 ・お助け隊の利用希望者の状態に応じて、専門職である包括支援センターと連携、共有していく中で、移動支援やゴミ出しなどの生活支援を続ける。 ・子どもを含む多世代交流が心の安らぎになるよう、子どもを介して住民が触れ合えるような交流の場として、地域食堂等考えていく。
		子どもの健やかな成長を育む		
		防災・減災の取り組み		・なじらね訪問を介して、高齢ひとり世帯や障がい者を抱えた世帯が孤立しないよう支援していく。 ・ふれあい昼食会の新たな参加者が増えるよう民生委員から声掛け、活動の周知をして貰う。 ・お助け隊こぼやしの意義、目的を専門職へも周知していく。
		情報発信		

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
白井	「やろってば！」笑顔で仲良く 白井地区	交流・仲間づくりができる集まる場がある地区	【課題】 ・小学校と合同の防災訓練など防災関係については、役員交代にともない引継ぎ状況について確認が必要。 ・地区の懇談会が開催された際に、施設等の避難補助や民間企業への一時避難場所の協力について行政へ相談したが、その後の確認ができていない。 【次年度への引き継ぎ】 ・防災の関係について行政や役員の引継ぎ状況について確認を行う。 ・既存の事業(あいさつ運動や花いっぱい運動)について活動の機会を増やすなど検討する。 ・支え合いのしくみづくりについて機会があれば継続して説明を行う。	・小学校合同防災訓練(煙体験、消火器体験、起震車体験等)を実施。 ・狸の婿入りでは、高校生のボランティアが参加予定。若い世代へ周知のための工夫が必要。 ・伝統芸能の棒おどりを通じた、中学生と地域の多世代交流の継続。 ・中学生との多世代交流(フロアカーリング)の開催を検討。
		既存組織を大切に育て連携する		
		既存事業を活発に		
		送迎を含め誰もが参加できる検討		
		事業者も地区の一員・交流積極的に		
		ボランティアや地区活動を理解し関心をもてる地区		
		あいさつ運動を実施する		・花いっぱい運動を実施。秋にも開催を予定している。メンテナンスの機会なども利用し、交流の機会につなげる。 ・自治会長が毎年交代するため、支え合いのしくみづくりについての説明は、繰り返し行っていく予定。自治会長を対象としたアンケートの実施についても検討。
		ボランティアや地区活動に積極参加		
		行事や活動の情報提供・PR		

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引き継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
大郷	なじらね ～？と声を かけあう大郷地区	支え合いのしくみづくり	【課題】 ・地域包括支援センターとのつながりづくりについて、敬老会等行事への声かけができなかった。 ・数年前から地域包括支援センターのチラシ配布もなくなったため、地域包括支援センターを知らない人も多いと思う。 ・見守り訪問の際に話を聞くと、親戚や隣近所などの助け合いでなんとかしている。	・認知症や介護について劇などで紹介しているところがある。包括や相談先について劇などでアピールする方法などを検討する。 ・敬老会には130人ほど集まるため、民生委員を紹介してもいい。副題を付けるなど開催を工夫してもいい。 ・高齢者等の見守りについて。引き続き、隣近所の声かけを行い、気にかけていく。
		担い手の育成	支援について検討をしたこともあるが、『助け合いのしくみをつくる』というよりも、『人とのつながりをつくる』『交流の機会をつくる』ほうが地域にあっていると思う。	・敬老会で子どもたちから参加してもらっている。多世代、関係者を巻き込みながら実施できるという。 ・子どもたちとの交流は継続して行う。
		災害への取組み	【次年度への引き継ぎ】 ・安否確認シートを活用し、多くの世帯に参加してもらえような防災の取り組みについて検討する。 ・既存の事業を活用し、地域と地域包括支援センターを住民に知ってもらえるような方法を検討する。	・安否確認シートについて、コミ協総会で紹介し、今年度検討予定。

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
鷺巻	全員集合！ 鷺巻地区 ～笑顔の和 をひろげよう～	支え合いのしくみづくり	【課題】 ・民生委員と自治会長との情報交換会を開催しているが、もう少し、密に情報交換ができるとうい。 ・12月に実施している給食サービス事業では、自治会長さんにも協力いただき、一人暮らし高齢者の見守りや安否確認を行っているが一人暮らしに関する自治会長さんからの情報が十分ではなく、対象者の把握に漏れが生じている。 【次年度への引継ぎ】 ・コミュニティカフェだけでなく、地区全体の行事についても積極的に情報発信を行う。 ・SNSの活用や、コミ協だよりでの開催案内・募集案内を充実させ、参加につながる広報を進めていく。 ・プロジェクターを利用した映画会を公民館と共催できないか提案してみる。 ・民生委員と自治会長との情報交換会の工夫。	・新任の民生委員との連携強化を図るため、他地区の取り組みも参考にしながら、年1回の情報交換会が地域課題の共有や相互理解につながる有意義な場となるよう内容の充実を図る。 ・コミカフェの活動だけでなく、鷺巻地区で行われている様々な行事や取り組みについても、SNSや広報媒体を活用し、地域内外への情報発信を行う。区社協だよりでコミカフェ部会の活動が紹介され、より多くの方へ活動を知ってもらう機会となったことから、今後も関係機関と連携しながら、地域活動への理解や参加につながる周知を進めていく。
		交流の機会の創出		・コミ協の協力により立ち上げたコミカフェ部会について、コミ協職員の協力を得ながら毎月の開催を継続し、地域住民の交流の場づくりを進める。 ・公民館等への声掛けを行いながら、実施方法や内容について情報収集を進め、地域住民が楽しめる交流の場づくりにつながるよう検討していく。
		防災・減災の取り組み		・各種行事を通じた顔の見える関係づくりは、災害時における助け合いにつながることから、交流の機会を継続して設けることが重要である。
		人材育成・人材確保		・地区には多くの事業があることから、企画・運営の役割分担を進め、関わる人の負担を軽減するとともに、より多くの人々が地域活動に参加しやすい体制づくりを目指す。
		安心・安全な地域づくりの推進		・地域活動への理解や参加を広げるためには、情報の共有・発信に加え、活動を支える資金面の工夫も重要であることから、持続可能な運営に向けた財源確保についても考えていく。

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
根岸	楽しく暮らせる住みよい根岸	支え合いのしくみづくり	【課題】 ・地域の人材が若手に移行する中、役員、係などの存在がわからない。名簿一覧表などがあれば、繋がりやすさや地域内の情報共有(関わろうとするきっかけ)も生まれる。 ・自治会によってはセーフティスタッフの担い手不足。 ・高齢独居の方のゴミ出し支援など、必要性は高まっているが、担い手不足のため広報自体も慎重に判断している。 【次年度への引継ぎ】 ・地域での支え合い活動に関するアンケート結果から、具体的な活動の必要性も含めた検討。 ・新たな地域のお茶の間、集う場などの機会の確保。 ・若い世代も含めた地域住民の地域活動への関わり、関わりやすさの工夫。現在行っている事業の継続。 ・小学校での福祉教育の継続(4年生重点)	・アンケートを踏まえた今後の地域での展開の検討について、あやめ祭り後の自治会長等との意見交換は実施できなかったため、引き続き実施方法を検討する。 ・自治会長の世代交代が進んでいることから、経験者(OB)の意見も取り入れながら地域づくりを進める。 ・自治会単位で地域のお茶の間や集いの場の立ち上げを支援し、助成団体が1つ増加した。今後も助成金の有無にかかわらず、地域の実情に応じた多様な集いの場づくりを推進する。 ・申請手続きを簡素化し、お茶の間の活動の立ち上げや継続を支援していく。
		防災・減災への取組み	・10月開催の防災訓練において、災害ボランティアセンターの役割や仕組みについて地域住民へ周知を行う予定。	
		若い世代の参画・交流できる場の推進	・若い世代が参加しやすい地域活動となるよう、農業に携わる世代やその子どもたちも楽しめる内容へ工夫していく。 ・自治会役員の世代交代を踏まえ、新たな役員も参加しやすい活動運営を進める。 ・地域の懇親会では、飲酒・非飲酒を問わず参加しやすい交流方法に配慮し、多様な住民が関わりやすい環境づくりを行う。 ・昨年度好評だった地域住民と子どもの交流事業について、保護者からの要望も踏まえ継続して実施する。	
		人材育成・人材確保	・学校コーディネーターと連携し、認知症サポーター養成講座をはじめとした福祉教育を推進する。 ・地域関係者と学校が連携し、子どもの頃から福祉への理解を深める機会づくりを進める。	
		安心・安全な地域づくりの推進	・地域活動や支え合い活動を進める際には、生活支援コーディネーターや関係機関との連携を密にし、地域住民の理解を深めながら取り組みを進める。 ・地域住民が安心して参加できるよう、無理のない参加や互いを尊重した活動運営に努める。	

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
大通	今つなげよう！大通に 安心と思いやりのネット ワークを！	地域活動への住民の参 画推進	【課題】 ・包括支援センターとの認知 症対応に関する情報交換が必要。 ・自治会長らへ新たな地域福祉 計画構築に向けた理解、啓 発が必要。 ・地区内福祉事業所等との災害 時連携についての情報交換 の検討が必要。 ・地域での見守り、困りごとに 対応するうえでの個人情報の 取り扱い。	・地域福祉活動計画や地域の取組 を、住民主体の計画として理解・参 画を促進するため、回覧板・コミ協 だより・ホームページ等を活用し、 継続的に周知する。 ・地域包括支援センターやコミ協、 関係団体との意見交換・連携を通 じて、住民が参加しやすい地域活 動を進める。 ・従来の講座にとらわれず、地域 ニーズに応じた新たな参加型の取 組を検討する。
		支え合いのしくみづく り	【次年度への引継ぎ】 ・地域住民に向け、令和9年度 地域福祉活動計画を策定して いくことを周知、理解を求め ていくことが必要。 ・地域包括支援センターへ大 通地区について知ってもらう (事業、取り組み等) ・災害時対応における地域の 状況と社会資源(高齢者施設 等)との情報の共有。 ・クリーン作戦を大通全域に拡 げ、環境整備と住民同士、顔 の見える関係の構築に繋げ る。	・地域包括支援センターと老人会、 ごきんじょネット、安心安全会議な どとの接点を持つ機会を作る。 ・地域・包括・関係機関が現状や課 題を共有し、日頃から顔の見える 関係づくりを進める。
		防災・減災の取組み		・災害時に備え、地域・高齢者施設・ 関係団体が日頃から顔の見える関 係を築き、連携体制を整える。 ・施設・コミ協・行政担当課による 情報共有・意見交換の場を設ける。 ・在宅要支援者の個別避難計画な ど、防災上の課題を共有し、支援体 制を検討する。
		つながりのある地域づ くり		・クリーン作戦を段階的に大通地 区全域へ広げ、住民同士の交流や 顔の見える関係づくりにつなげ る。 ・強制ではなく、住民の理解を得な がら継続して取り組む。 ・自主的なごみ拾いなど、小さな地 域活動の担い手を増やし、地域へ の関心や支え合いの意識を育む。
		情報発信		・地域包括支援センターの役割や 相談先を、世代に分かりやすく伝 える広報を行う。 ・一度で伝わらなくても、継続的な 情報発信により地域住民の認知と 理解を深める。 ・策定過程も含めて「見える化」を 図り、地域住民の関心と参加意識 を高める。

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引き継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
白根	広げよう地 域の輪 風の舞うま ちしろね	支え合いのしくみづく り	【課題】 ・白根お互いさま支援隊への依頼は地域包括支援センターをとおしての相談が多く、周知が足りないように思う。敬老会や配食サービス等で75歳以上の方にチラシを配布する機会はあるが、75歳以下でも支援を必要としている人はいると思うので周知が必要。 ・3地域合同の防災訓練を実施したが、役員の段取りが上手くいかず、参加者から不満の声が聞かれた。役員の役割分担について事前確認が必要。 【次年度への引き継ぎ】 ・白根お互いさま支援隊について、75歳以下の人に知ってもらうための方法についての検討。依頼があった際の体制づくり。 ・学校(小・中・高)へ地域行事の参加について呼びかけるとともに、各校の取り組みについての確認。	・担い手の育成や引き継ぎも見据えた、支援方法の検討。 ・75歳以下の人への周知方法についての検討。 ・周知用チラシの不具合箇所の修正。
		災害への取組み		・9/6(日)に南部防災訓練(北部合同)を開催予定。
		担い手の育成		・白根高校へ9月に開催を予定している防災訓練への参加呼びかけを行う。
		白根児童センターと地 域とのふれあい		・例年どおり継続して実施予定。

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
味方	なじらね ば かい～ね いきいき ふれあい ささえあい 味方地区	支え合いのしくみづくり	【課題】 ・民生委員も加わり、みんなのみかた応援隊の活動が活発化してきた。コミ協だよりなどで周知もできてきたが、ボランティアの確保が難しい。 ・助け合い活動について、各自治会長への周知理解が未だできていない所もある。民生委員の欠員地域もあり、今後要検討が必要。 ・充実した地域活動について、大字単位での結束力の違いがある。民生委員だけでなく、コミ協地区担当からのアプローチも必要。 ・伝承や子どもたちの地域活動への参加意識について、地域クラブ化できたものとそうでないものがある。担い手や、繋がりの点からも検討必要。 ・デマンドバスの話もあるが、地区的に使いにくさを感じる。どの地区も一緒ではない所を行政にも知って欲しい。 【次年度への引継ぎ】 ・みんなのみかた応援隊など、支え合い活動のボランティア確保・拡充の継続を図る。 ・自治会長への身近な助け合いについて、伝える機会を持てるよう検討する。 ・伝統継承や、地域クラブ化に向けた体制づくりを行う。 ・住民の移動等、地域住民の課題について行政へ伝えていく。	・みんなのみかた応援隊の活動継続のため、担い手であるボランティアの確保が出来るよう、活動の報告を続け、住民への参加を図る。 ・身近な助け合いが出来るよう、民生委員と自治会長が話し合いができる場を作っていく。また、必要性をコミ協からも伝えていく。 ・民生委員の見守り訪問で、高齢者世帯や、障がい者のいる世帯の把握を行い、常に声を掛けあえる関係づくりを続ける。 ・行政へ民協定例会や支え合いのしくみづくりの会議などの機会に、現状を伝えていく。
		地域共生社会の実現		・中学部活動や、伝承活動の地域クラブ化したものの取り組みや活動内容への関心が持てるよう、随時共有しながら盛り上げていく。 ・地域全体の合同防災訓練の継続で、年齢関係なく活動でき、横のつながりを持ちながら担い手の確保に努める。
		地域の中での交流活動の推進		
		組織強化		
		PR活動		・コミ協便りや、みんなのみかた応援隊の活動の様子や、ボランティアの募集を行う。 ・地域のイベント活動等、回覧板の活用や声掛けを行い周知参加を募る。

南区地域福祉アクションプラン 令和8年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和7年度推進計画		R7年度取組んでの課題と 次年度引継ぎ事項	令和8年度の目標と取組み
	スローガン	推進目標		
月潟	あいさつ 声かけ 思いやり つながり ふつつ 子の里 獅	支え合いのしくみづくり	【課題】 ・避難行動要支援者名簿は共有が難しいため、班ごとに意見を聞きながら名簿を作成しその過程で、日常的にゆるやかな支え合いにつなげたい。 【次年度への引継ぎ】 ・自治会長と民生委員との情報共有の場の提供 ・住民バスがオンデマンドタクシーへ移行することについては、説明会の開催を要望し、まずは役員が内容を理解し、そのうえで利用者からの理解も進めていきたい。	・今年度も「ふれあい茶ろん」を開催し、介護施設を会場として施設見学や利用者との交流を行うことで、地域と施設のつながりづくりを進める。また、月潟圏域の支え合いのしくみづくりの構成員にも参加を呼びかけ、交流の輪を広げるとともに、昨年度実施したタオル体操も継続して取り入れる。住民バスからデマンドタクシーへの円滑な移行に向け、地区役員が制度や利用方法への理解を深め、地域における活用方法について検討していく。
		地域共生社会の実現		・複数の自治会を担当している民生委員も多いことから、一堂に会して情報交換を行うのではなく、個別に意見交換を行う機会を設け、それぞれの地域の状況や課題を丁寧に把握・共有できるよう、今年度も継続して実施していく
		地域活動への住民の参画推進		・月潟のお茶の間では、消防訓練の実施を予定しており、参加者が火災や災害時の対応方法を学ぶとともに、日頃からのつながりを活かした地域の支え合いや防災意識の向上につながる学びの場として活用していく。
		情報発信		・コミ協通院、地区社協だよりを活用し地域の情報発信を行う。 ・引き続き月潟便利帳の配付により、地域の情報、相談機関の周知を行う。